

令和4年度 学校推薦型選抜 小論文(文学科 英語英文学専攻) 解答例

問1 (30点)

【採点のポイント】

- ・筆者が感じた日本とアメリカの間の違いを2つ挙げて、説明しているか。
- ・高校で習得する程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。
- ・200～240字で書いているか。

【解答例】

一つは、見知らぬ人との会話に見られる。日本ではスーパーのレジ係のような見知らぬ人とふつう会話をしないが、アメリカでは日常的に会話をする。知らない人と何気なく言葉を交わすことは挨拶以上の重要性がある。もう一つは人々の表情に見られる。日本では、何があっても感情を表に出さないことが求められる。そうしないと、失礼と見なされる。しかし、アメリカでは感情を顔に出すことは自然なことである。自分の個性を表現する権利があると考えているので、感情が常に顔に表れる。(223字)

問2 (70点)

【採点のポイント】

- ・自分が慣れ親しんだ所から離れた時に感じた文化や習慣の違いを、自らの体験を通して説明しているか。
- ・自分の考えを具体的に述べているか。
- ・文章を論理的に構成しているか。
- ・高校で習得する程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。
- ・540～600字で書いているか。

【解答例】

私は鹿児島に住んでいるが、高校1年の夏休みに、東京に住む叔母の家へ遊びに行くことがあった。東京に着いてまず驚いたのは、通行人の歩くスピードが速いことだった。地下鉄の駅へと向かう途上で何度も人にぶつかりそうになり、何度も謝った。叔母の家に辿り着いた時には、人の波に酔ってフラフラだった。翌日から観光に出かけたり、知人に会ったりしたが、周囲の人々の歩調の速さは東京にいる間、常に感じたことだった。これは慣れ親しんだ鹿児島という場所を離れないと分からないことだった。17年間の鹿児島での生活が私の歩調を決めていたのだ。

また私は中学校の時に ALT の先生と仲良くなり、彼女のホームパーティに招かれた。数人の生徒の他は、全員がアメリカから来た教員で、数時間だったが、日常を離れ、アメリカに留学をしているような気分だった。先生たちは、真剣な面持ちで私の話を聞いた。日本人教員ならば、和やかな表情になりそうな場面でも、じっと目を見て表情を崩さないことが私は気になった。後から知ったが、欧米人の教員は、「あなたの意見を私は真剣に聞いている」という態度を示すため、笑みを見せず生徒の意見を聞く傾向があるらしい。それを知らない留学生は、教員が威圧的に見つめていると思い、委縮することがあるそうだ。私は上記二つの「旅」を通して、自文化と異文化への理解をわずかでも深めることができたように思う。

(599 文字)